

森永乳業株式会社 東京多摩工場

建物諸元(2026年1月現在)

所在	東大和市立野4-515
主用途	工場
敷地面積	126,909㎡
延床面積	76,925㎡
階数	地上6階
竣工年月	1966年2月
事業者・所有者	森永乳業株式会社
URL	https://www.morinagamilk.co.jp

主な評価項目

I 一般管理事項

CO₂削減推進会議を毎月開催し、削減体制を強化。従来の環境マネジメントシステムと連携し、CO₂削減対策を推進

II 建物、設備性能に関する事項

高効率ガスコージェネレーション2基導入、高効率蒸気ボイラ・熱源機器導入、動力回収蒸気タービンエアコンプレッサ導入、氷蓄熱システム活用、熱源ポンプ等のINV化

III 運用に関する事項

エネルギー監視システムを活用したデータ分析・解析による設備運用の最適化

IV 再生可能エネルギーに関する事項

太陽光発電システムを導入し、場内負荷にて消費

V 環境配慮等の取り組みに関する事項

ゼロエミッション化へのロードマップの策定・公表

事業所の概要

森永乳業株式会社東京多摩工場は、同一敷地内に独立した2つの工場を有し、主に牛乳などの飲料、ヨーグルト、育児用粉乳を製造する森永乳業の主力生産拠点です。森永乳業は古くから環境対策に取り組んでおり、コージェネレーションシステムをはじめとする高効率機器の導入や、ISO14001システムによる省エネルギー・CO₂削減活動を積極的に推進しています。

事業所における環境負荷低減の取組

・コージェネレーションシステムの導入

4, 100kWガスタービンと5, 300kWガスエンジンのコージェネレーションシステムを導入、使用電力における自家発電比率は約8割となっています。ガスエンジンはBOS(ブラックアウトスタート)機能を装備し、非常時には事業所単独での自立運転が可能です。

・エネルギー監視システムの構築

各設備をネットワークで結び、常時監視システムとエネルギーデータ収集システムを構築。リアルタイムの最適運用を図るとともに、データ解析による改善策の立案を行っています。

・高効率運用の実現

工場の操業形態に合わせ、特性の違う2基のコージェネレーションシステムと蒸気駆動・電気駆動の熱源機器の選択を組み合わせ、CO₂排出量が最小となる最適な運用をエネルギー監視システムの活用により実現しています。

・自然エネルギー、未利用エネルギーの活用

2003年、NEDO共同研究事業として40kW太陽光発電システムを導入、現在も継続運用中、2023年500kW機を増設しました。未利用エネルギーの活用では250kW蒸気減圧動力回収エアコンプレッサを導入しています。

・全員参加の取組み

高効率機器の導入・運用のほか、食品工場の使命である安心・高品質・安全性を確保しつつ、空調温度の緩和や照明の間引き、提案制度の活用など全従業員が協力し、CO₂排出量の低減に取り組んでいます。



事業所外観



ガスタービンCGS



ガスエンジンCGS



太陽光発電システム



エネルギー監視システム